

## 令和3年度 人権に関するポスターコンクール審査講評（全体）

本年度は、県内各地の小・中・義務教育・高等学校及び特別支援学校260校並びに一般から2,762点もの応募があり、4名の審査員で審査を行いました。

小学校低学年の作品は、人権の花であるひまわりを囲んで友達や家族と仲良く過ごしている様子を表現した作品が多く見られました。パスやペン、水彩絵の具等を使って、のびのびと線に表したり、明るい色で塗ったりして、楽しく想像しながら表現に取り組んだ様子が伝わってきました。

小学校中学年の作品は、人物とひまわりとを関連付けた画面構成で、友達と協力することや助け合うことの大切さを伝える作品が多く見られました。混色や重色などの技法を生かしたり、ちぎり絵など表現方法を工夫したりして、自分の思いに合うように最後まで表現した様子が伝わってきました。

小学校高学年の作品は、人権について考えさせたり、互いのよさや違いを認め、受け入れることを主題にしたりする作品が多くみられるなど、伝える相手や内容に広がりを感じられました。様々な表現方法を効果的に生かしながら、線描や彩色に粘り強く丁寧に取り組んだ様子が伝わってきました。

中学生の部は、どの作品も完成度が高く、各自が人権についてしっかり考えている姿勢が伝わってきました。応募作品は、現代社会が抱える課題に対して、人権尊重の多様な視点から主題を発想し、見る側に考えさせる図案や訴える言葉、レイアウト、配色等に工夫が凝らされていました。また、レタリングやポスターカラーによる着色も丁寧に表現されており、ポスターとしての仕上がりの美しい作品が多く見られました。

高校生の部は、コロナウイルス感染症の影響からか、例年よりも出品数が少なかった点が残念でしたが、応募作品は、高校生らしい視点でいじめや性の多様性などから主題を発想し、差別のない明るい社会の実現を訴える工夫が凝らされたポスターが出品されていました。モダンテクニックを利用したものやイラスト風のものなど、多様な表現が見られました。

特別支援学校の部では、人権について考え、自分の思いや願いを素直に伸び伸びと線描したものや鮮やかな色で楽しく着色した作品が多く見られました。主題を表現するために描かれた、笑顔の家族や友達、花、動物などが、見る側を優しい気持ちにさせてくれました。また、応募作品からは、一生懸命表現する児童生徒のみなさんの姿が感じられました。

全体的にどの作品も「人権を大切にしよう。」という思いを込めて表現されており、児童生徒のみなさんが表現する中で、人権について深く考えていることがうかがえました。